

**質問書に対する回答**  
**首都圏中央連絡自動車道 成田北工事**

番号	質問箇所	質問事項	回答
1	道路掘削(土砂A1) 特記仕様書22-2-1: P26 道路掘削(土砂A1)	特記仕様書には「STA.3+60～STA.23+80の本線・切回し道路及び調整池に切土部における土砂の掘削、積み込み」と記載されています。 数量計算書では「STA.83+00～STA.88+20の本線切土部」も対象範囲に含まれています。ご確認下さい。	R03.06.25付け訂正公告後の特記仕様書、設計図、金抜設計書をご確認ください。
2	盛土工 金抜設計書 特記仕様書 22-2道路掘削、客土掘削 22-3盛土工 22-4構造物掘削 及び構造物裏込め工:P26～P29 縦断図、横断図	契約図書を集計をすると、約8,000m <sup>3</sup> 以上残土が発生すると思われます。 発生した残土については、積込み費、運搬費、処分費等は設計変更協議でよろしいでしょうか。ご教示下さい。	設計図 参考図 土配計画図(参考図) P20/22に示すとおり、残土は発生しないものと考えています。
3	函渠工(中詰土) 特記仕様書 22-2道路掘削、客土掘削 22-3盛土工 22-4構造物掘削 及び構造物裏込め工: P26～P29	特記仕様書には函渠工の中詰土についての記載がありません。設計変更協議でよろしいでしょうか。ご教示下さい。	中詰め土については、特記仕様書22-3-1に示すとおり、盛土工B3 3) STA.3+60～STA.23+80の本線部に含まれるものとお考えください。
4	調整池 調整池図面(44,46/107)	材料表について 遮水鋼矢板SP-II W、L=2.0mが11枚となっています。断面図(3) 1-1断面の数量は、6枚と思われます。暗渠工+吐口工の合計で11枚と思われます。ご確認下さい。	設計図 調整池 P41/107、43/107～46/107に示すとおり、暗渠工11枚と吐口工5枚の合計16枚です。
5	遮水鋼矢板設置 特記仕様書22-31-3 P53	遮水鋼矢板設置歩掛について 22-31-3作業内容 摘要欄に「鋼矢板は油圧式杭圧入引抜機」になっています。可とう鋼矢板は天端しか掘む事が出来ない構造となっている為、バイブロによる打設と考えられます。設計変更協議でよろしいでしょうか。ご教示下さい。	可とう鋼矢板は油圧式杭圧入引抜機による打設が可能と考えています。現場条件等により、監督員が必要と認めた場合については、別途協議事項とお考えください。
6	調整池 調整池図面	調整池 放流塔 遮水鋼矢板材料について 鋼矢板II型の規格は、SY295と考えてよろしいでしょうか。それ以外であればその規格をご教示下さい。	貴社の施工計画に基づきお考えください。

質問書に対する回答  
首都圏中央連絡自動車道 成田北工事

番号	質問箇所	質問事項	回答
7	立入防止柵・出入口 金抜設計書:125~127 特記仕様書22-15-1:P37 附帯工(64~65/92)	金抜設計書と特記仕様書には、立入防止柵・出入口は全て小動物侵入対策型が記載がありません。立入防止柵工の設計面では、一部小動物侵入対策型が記載されています。全て小動物侵入対策型で考えてよろしいでしょうかご教示下さい	設計図 附帯工 64~65/92に示すとおり、出入口、門扉を除き、小動物侵入対策型となります。